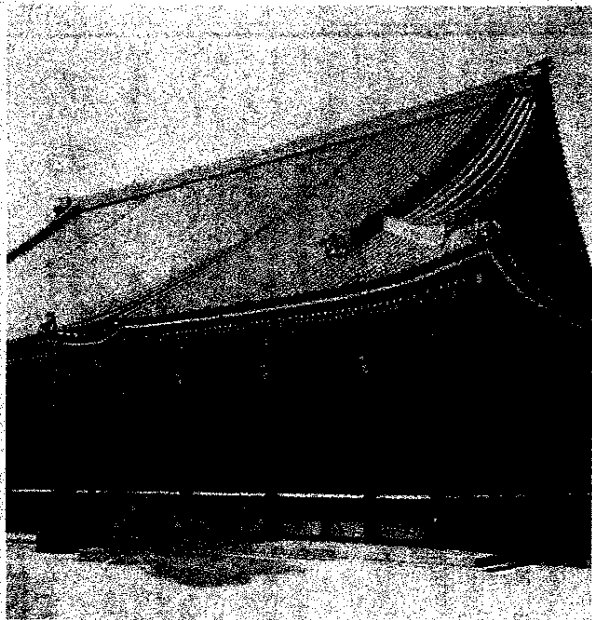


小樽別院だより

新年の挨拶

輪番教重文雄

新年おめでとうございます。皆さまには御気嫌うるわしく新春を迎えられましたこととお慶び申し上げます。昨年は、小樽別院開教百周年記念慶讃法要、並びに別院会館新築落成式典、別院仏婦創立八十周年記念大会を無事盛大に執り行わせていただきましたこと、ご門徒各位の愛山護法の暖いおこころの賜もとの有難く御礼申し上げます次第です。新しい年を迎え本年も、今まで培われてまいりました伝灯を、より生かしながら、皆さまとともに、別院の隆盛とお念仏繁盛のために邁進させていただきます覚悟でございます。京都のご本山、大谷家の皆さまに



御本山、修復完成の阿弥陀堂

発行所
本願寺小樽別院
小樽市若松1丁目4番17号
〒047 TEL0134-22-0744
編集・発行人
教重文雄

小樽に念仏の
友垣の輪を
ひろめよう

は、明るいなやかな新春を迎えられました。ご門主さま、お裏方さま、前門さま、前裏方さま、淳さま、弘さま、お六方には、益々お元気で宗門発展のためご活躍のほど、お慶び申し上げます。

新しい年を迎えますと、いつも思いを新たにすることは、いつも思

「道徳はいくつになるぞ。道徳念仏申さるべし」。明成二年正月一日の勤修寺村の道徳に話された蓮如上人のお言葉を味わうことです。

「いくつになるぞ」のお言葉を通じて、一年一年、年をとるといふことは、どういふことを考えてみる。

「念仏申さるべし」のお言葉をいただいて、「念仏申す」とは、どのように生きるかを味わってみることで、同じお言葉が、毎年、新しい意味と内容をもって私に迫ってきます。

ともすれば形だけの挨拶におわつてしまふ私の心を見抜いて、厳しく誠しめられたお言葉、「信心決定」こそが大切であると、聞法、伝道の厳しい姿勢がうかがわれ、思いを新たにさせていただきますことです。

別院では皆さまの期待と信頼に応え、毎月一日と十六日を「総参拝日」の実施、「朝詣り百日参拝」の実施、「日曜仏教講座」「定例法座」等を催して、別院でのご法座の縁にふれていただき、宗祖聖人の正しいみ教えに生きる念仏者の育成に力をそそいでおります。

本年は新たに「本山参拝と京都、奈良めぐり」の団体旅行、「お正信偈」「阿弥陀経」等のお経をあげる（練習会）集いなどを新たに企画いたしました。

お念仏の教は「ゆり籠からお浄土まで」と申すように、幼少年から青年、老年層にいたるまで年令をこえて、私達人間の生き方、あり方を明らかにして下さるみ教えです。

今日の日本にみられる特徴として

①西欧諸国の中で最も高い自殺率（中・高年）②離婚の増加、③知能犯罪、④少年非行、⑤老人の問題等があげられております。「科学が進歩するほど迷信が消えていくどころか逆に強化される」「水子供養の繁盛」、「ぼつくり寺」の人氣、宗教書は氾濫しているが、御祈禱と迷信を伴うものが多い。こうした現代社会に、本當の宗教こそがそうしたものを消すことができうるものです。

本年も魅力ある企画と活動展開をはかっていくことです。皆さまの積極的なご協力をお願い申し上げます。

合掌

宗祖冒瀆に抗議文

フジテレビ系列で放映中の人気番組「笑っていいとも」の中で、タレント（本名、森田二義さん）が「開祖淫（いん）乱上人騒動宗他方本願寺派」などどふざけた名称を用い、親鸞聖人の名前を茶化した放送に、全国の寺の住職や門徒から、怒りの電話が本山やテレビ局に殺到、「見逃すことはできない」と慎重に抗議の方法などを検討し、本山・広報部では先月（十月）二十八日、同テレビ局側は深く謝罪し、三十一日の番組で、おわびのテロップを流し、ひとまず結着した。

一月別院行事案内

- 一、修正会（元旦法要）元旦、六時半
- 一、正信偈和讃、法話、御流盃（お供の御酒をいただく）参拝記念贈呈
- 一、緑、若竹、新光、奥沢説教所、輪番、元日巡拝挨拶詣り。
- 一、奥沢説教所「樹心会」新年会、十四時
- 一、定例法座、九日、十一日、十三日、十六日
- 一、奥沢説教所「唯信講」新年会、十日
- 一、新光説教所「法友会」新年会、十三日
- 一、御正法要、十四、十六日
- 一、別院門信徒新年会、期日、一月十六日（休）十六時
- 一、会場、別院会館ホール、会費、金二、〇〇〇円也、切、一月十三日まで、別院事務所受付又は電話でお申込み下さい。
- 一、二一〇七四四
- 一、日曜仏教講座
 - 第一〇四回、十二日（日）、九時三十分、第一〇五回、十九日（日）、
 - 「真宗の信心」講師、輪番、緑説教所「無量講」新年会、二十日、
 - 若竹説教所「彰心会」新年会、二十日、
 - 仏教社年会例会、二十七日、新年会開催、
 - 農朝和讃法話、毎月二十一日、三十一日まで
 - 和讃の心を味わおう、日曜子供会例会二十六日（日）、カレンダーのこころを学ぶ、毎月十六日、十四時、十五時

私のお正月

総代、仏社会長 小紙 文隆

明けましておめでとございます。昨年はいろいろな事がありました。別院会館の落成やら婦人会の記念行事に御門主様そして前門の裏方様等御臨席頂き大へん賑やかな年でもありました。兎に角御輪番を始めとして職員の方御門徒の方の絶大なご協力により非常に立派な業績をあげる事が出来た事は誠に喜ばしい事であります。心から御祝いを申しあげたいと思います。

又、私は仏教壮年会に所属している関係上、特に喜びたい事は、之等の記念行事に併せて、私共のシンボルである仏旗を作製しましたが会員の皆様と共に、その喜びと幸福に御仏様に御礼を申し上げずには出来ません。さて切角立派な道場が出来ても開法のお機会を作らねば意味がななくお昼朝或は日曜講座等には努めて受講しようと思っておりますが欠席勝ちです。併し忙しい中でも出来るだけ参加して下さいます。よろしくお願ひ申し上げます。

副輪番坊守 高柳 フサ子

「除夜の鐘、今年も幸福、ニッソラ」私の恩師とも慕う亡き御老院の句でございませう。師走に入ると決まってこの句を思い出します。毎日の暮らしの中で総てが当り前と思いがちの私に、来年の除夜の鐘を撞ける保証はありません。今年もまた、生かされて生きてきた一年を幸福と感ぜた時、除夜の鐘の音に感動を覚えずには居られません。過ぎた一年を顧みて善悪共に反省し浄化したいと念するばかりです。私とお正月、それは全ての事柄に対する感謝と希望の事始め、家族と共に新たな一年の計画を考へるひとときが唯一の楽しい思い出作りの始まりと言えらるでしょう。心静かにお念仏申す時、生かされて生きる私を確信する次第です。合掌

若竹、彰真会々長 山田 秋雄

私の新年は、朝参りを欠かす事なく続けられ、又めでたく金婚式を送れた事も心身に健康であったからだと手を合わせる事から始まりました。お正月ともなれば、私の75才を筆頭に10ヶ月の孫に至るまで総勢25人が集り、夜が更けるのを忘れて語り合おうと言ふ、それは賑やかなひとときとなりませう。皆に与えられたこの楽しい日を、今年も家族揃って祝えた事に心から感謝致します。

子や孫達には何事も「させて頂く」と言う謙虚な気持ちを忘れないうようにと語り伝えたいものです。心の支えとなる信仰と目標を持ち続けて行けば、新しい年も開拓して行けそうです。希望に満ちた61年である事を願わずにはいられません。おわり

世話人 風間 毅

新年あけましておめでと御座います。「正月は、南無阿弥陀仏で、事始め」、の大事な日々を生かされて居ります。時の流れの速い事、昨年を振りかえり今年こそは、無駄少く一年である様精進させていただき、聴聞し仏恩感謝の生活をすべく頑張ります。

寺参りする様になつて我が家の正月は御内仏の御荘厳だけで、門松とかメカざり致しません。此れ一重に仏恩の有難き事を御仏様に感謝申し上げます。

「心やすらぎ、元旦の、なもあみだぶつ、なもあみだぶつ」

「ありのま、見つめられて、初参り」今年も皆様の御指導をお願い致します。

仏婦会員 大門 美智子

色々な事情で私の正月は東京で迎えることが多い。地下鉄築地駅から明けきらぬ元朝の地上に出ると、薄暗に浮かび上つて他を圧する洋風の大地。築地本願寺である。正面階段を上つて扉を押す。荘厳なパイプオルガンの音色と多くの入々が堂内に満ちている。やがて元旦会のおつとめ、そして新年のご法話。真実の教えに出会えた嬉しさにふるふる心むなしい生に打ひしがれた頃のことを思い出される。生れ変つた喜びを

皆に伝えたいと思う。ご流盃を戴くと新たな年を迎える決意が心の底から湧き上る。外に出る。日頃の喧騒が嘘のように静まりかえつた元日の東京の朝が白々と明けわたつて居る。

仏婦会員 安田 芳江

新年あけましておめでとうございます。昨年は小樽別院開教百十周年、仏婦創立八十周年、別院会館新築落成と一生に一度の大事業が、ございました。御門主様を頂き、又前御裏方様と御同行させて頂いたとき、小樽にいてさへ一寸見た事のない所を見させて頂き、こんな所があったんだなと思わせて、頂きました。前御裏方様から、にじみ出る御優しさ、奥ゆかしさの程が、私に伝わってまいりました。本当に有難と御座いました。

今年こそは、くと思いつつ、さっぱり変りばえのしない私ですが、明るく、前向きになつて、家族共々、尚一層、門法させて、いただきたくたいと思つて居ります。

心静かに、正月気分を、味わいたいと思ひます。

○仏教壮年会全国大会に参加して
小樽別院仏社役員 川崎 正吉



去る十一月二日、三日の二日間本山にて大会が開催され、小樽別院仏社代表として参加できましたこと心から喜んでおります。全国より一七七名一同御影堂に会し大会スローガン念仏の声を世界に子や孫に大会テーマ御同朋の社会をめざして開会式後二門主様のお言葉を戴き私達は今後お念仏のみ教をもとに家庭と社会と新しい時代に念仏者として今後結果を固め基幹運動を推進宗門の真の中核体として念仏の輪がひろまるよう心を新たに御役立てたいと思ひます。新年より二門主様、前門様の御臨席をいただき百華園にて園遊会が盛大に催され参加させて頂き、一生の思い出となりました。

合掌

報告と御礼。

小樽別院開教百十周年記念・慶讃法要終了

特別会計、慶讃法要決算
歳入 三千六百四十一万五千五百〇円
歳出 二千九百五十万一千五百九十三円
残り金 六百七十五万八千九百五十七円
但し、残り金は一般会計並びに別途の会計に納入
○十二月十六日法要常任委員会において報告承認す。

出				入			
科目	予算	決算	説明	科目	予算	決算	説明
1 御本山関係費	2,500,000	1,895,244	御本山御一行他関係費	1 一般会計	5,000,000	5,000,000	一般会計より回金
2 法要法中諸費	4,850,000	4,973,553	寺院法中法要諸費不足金は予備費より	2 会館建築計金	15,000,000	15,000,000	会館新築会計より回金
3 門信徒記念品費	2,100,000	2,082,000	会館新築記念品費	3 新納骨堂計金	6,000,000	6,000,000	新納骨堂会計より回金
4 祝賀会費	3,000,000	3,198,465	祝賀会関係費不足金は予備費より	4 門信徒志	4,000,000	8,507,700	門信徒志法要祝賀会志
5 仏婦大会助成費	2,000,000	2,000,000	仏婦80周年大会助成	5 特懸別志	800,000	1,718,100	御本山、並びに寺院その他の志
6 会館落成費	500,000	478,800	式典諸費	6 雑収入	200,000	184,750	預金利息
7 記念講演費	1,000,000	524,126	記念講演諸費				
8 内陣修復費	9,500,000	10,092,000	内陣一部修復費592,000不足金は予備費				
9 参拝記念品費	850,000	819,000	法要参拝者用				
10 法要荘厳費	1,000,000	906,496	法要荘厳諸費				
11 事務諸費	2,700,000	2,681,909	事務諸費				
12 予備費	1,000,000	0	2款1項、4款1項、8款1項 補填				
合計	31,000,000	29,651,593	対比 1,498,407	合計	31,000,000	36,410,550	剰余金 6,758,957

別院開教110周年法要



迎春



歳旦の
目出度きものは
念仏かな
(句仏上人)

先人偲び自覚新たに げんしゆくに御親修法要修行

別院開教の意義を味わい、お念仏に生かされている今日を共に慶こばせていただこうとの趣意にもとずいて、かねてよりお待ちもうしてきた別院開教百十年記念の慶讃法要が御本山より第二十四代即如二門主を迎えて盛大に執り行われた。

慶讃法要の前日の十三日は、別院仏教婦人会創立八十周年記念の大会が本山より大谷嬉子前裏方さまをお迎えして、記念式典、記念講演と、会員はもとより、各界の関係者、来賓多数出席のもとに盛大に行われた。尚、「別院会館」の落成式もあわせて行われ、関係者一同、手をとりにあ

って喜びをかみしめた。

十四日の慶讃法要に先立って十三日の夕に、市内国際ホテルにおいて祝賀会が催された。御門主さま、前裏方さまのご出席のもと、本山関係者、教区関係者、道内各別院輪番、市仏教会、市要職者、別院役員、仏教婦人会関係者約四五〇名の出席のもとに、仏婦のアトラクションも入って楽しいひとときを過ごした。

慶讃法要の十四日は、法要に先立って、約三百余名の掃敬式が厳しゅうりに行われた。あいにくの悪天候におねりは、新会館から廊下を伝って本堂へのコースで催された。

まず、稚児百余名を先頭に雅楽の音色に合せて、門信徒役員、僧侶、

仏教婦人会創立八〇周年 記念大会盛大に終了

小樽別院仏教婦人会創立八十周年記念大会は、京都本山より大谷嬉子名誉総裁さまをお迎えして盛大に開催された。七月十三日当日は天候にも恵れ、早朝から多数の参拝者でにぎわった。正午総裁さま別院にお着になり、関係者との挨拶をかわされた。午後一時、別院本堂において、記念式典が始まり、献華、献灯、献香、おつとめと次第がすすんで、名誉総裁さまのお言葉をいただき、来賓祝辞、本山からの表彰状授与、アソカの園をうたうたって閉式となった。

第二部は、名誉総裁さまによる「特別記念講演」が行われ、前裏方さまの人生の歩みと考えが、よく理解され感銘を深くした。終って本堂入口の一同玄関にて記念写真を撮って終了した。

第三部は、市内国際ホテルを会場に祝賀会が催され、相互の懇親と大会の意義を喜びあった。

△朝詣り(第五回) 百日連続参拝終了

本年で第五回目を迎えた朝詣り「百日連続参拝」は、五月一日に始まり八月八日を最後に終了した。しかし、続けて今日の雷空の中をお詣りしている方が十数名、お念仏の心が身についた人と有難く感謝している。

○百日連続参拝者名、六名
風間 毅 加藤福恵
白浜千代 品川 照
嶋田アイ子 浅野真理子
○百日参拝者名
辻 初枝 佐々木アキ 安田芳枝
山田秋雄 橋本福与子 佐野スエ
宮本ミイ 見楚谷光子 森 セキ
黒川キヨ 長谷部和子 真田テル
木戸フサ 中条国子 清水和子
倉田マヤ子 浅敷美恵子 山本 辰
川崎正吉 悦水アサエ 佐野清一
大門美智子 三浦スエ 三浦幸子
二十四名以上

●各サークルの動き

○全国仏壯大会は十一月三日、京都の本山で催されたが、別院仏壯から川崎正吉さんが参加した。遠路ご苦労さまでした。(別院報告)

○本年度の仏壯の報恩講は去る十一月二十四日(日)十六時から、別院ホールにて行われた。大望していた仏壯の会旗が購入され、会員一同会旗のもとに今後より一層の発展を願って会旗の披露が行われた。後志組の坪井組長を始め組連協の会長、真正寺仏壯会長他来賓多数の出席のもとに厳粛に終わった。

○例年ご奉仕いただいている別院の冬開い作業、十二月一日(日)六名の会員によって行われた。ご苦労さま。

○除夜の鐘、仏壯の有志を中心に行われる、風邪を引かぬように……。

●仏婦コーナー

○仏婦の大会も無事終了し、現役員が退いて新役員のもと明年から再出発となる。正式には一月の総会で決定をみるが、会長は沢田京子、副会長は五ノ六名を内定している。

○仏婦の報恩講は九月二十七日、お正信偈を共にあげながらおそかなうちにとまった、輪番の法話、懇親会に入り和気あいあいのうちに、終了した。

●仏青コーナー

○冬休みに入るので正月を中心にした活動が行われる、その一環として除夜の鐘、新年朝まいり他、

大事な幼児期に 園児募集集中

充実した成長を
小樽幼稚園



照らさるる
明るい道に
迷いなし

あなたとの話
「こころが聞きたい」
確かな人生をめざして

担当 教重文雄

問 仏壇とはご本尊をお迎えして安置するものです。たとえば、お釈迦さまの座像をご本尊として安置する宗教では、その大きさにあわせて仏壇の設計がなされています。私たちが浄土真宗では、ご本尊は主たて長の絵像の掛け軸ですから、仏壇全体もそれにあうように、比較的、胴長なものになっています。そして、さらに細かくみると、同じ浄土真宗でも、真宗大谷派（東本願寺）では、宮殿にもごしがついていて二重屋根のように見えます。浄土真宗本願寺派（本山・西本願寺）では、宮殿にもごしはつけないとか、仏具についても輪灯や具足、卓などはつきり別されておられます。これは、両本山の本堂内陣のおかざりの仕方や仏具の形を基本として家庭の仏壇も準じたものでしょう。いずれにしても、仏壇を求めるときは、必ず「私の宗旨は浄土真宗本願寺派」という点を明かにしておくと同時に、事前にお寺のご住職に相談して求めるようにしてください。

問 二本尊はどのように迎えますか
また、お礼やお守りはどう扱いますか

答 仏壇店から仏壇を求めますと、ご本尊が用意されていますが、浄土

ご門徒へのお知らせ

一、護持費納入について
別院の護持費は、本堂等の建物を始め冬の除雪対策などに用いられております。
年間の納入額は左記の通りです。
総代、三万円以上、
参手、二万円以上、
肝煎、一万二千元以上、
一般A、八千四百円以上（月七百円）
一般B、六千円以上（月五百円）

二、納骨堂保管費について、
納骨堂保管費未納者は来る三月末日までに別院事務所か、お参りの職員までお届け願います。
尚、一時保管の方で、何年間も、欄に安置して、一時保管といえないお骨も多数あります。新納骨壇の方へご安置下さい。

保管費加金は前年どおりです。
三、年回法要をつとめる方に、
年回法要を勤めるときは、できるだけ早目に申し込んで下さい。近年とくに日曜日の十一時に集中しております。先着順に受けつけておりますが日曜日以外の日にお勤め下さいますようお願いいたします。

○本山より表彰
別院開創百周年記念慶讃法要に際して、本山の渡辺総務から左記の方に表彰が授与されました。こころからお祝い申し上げます。

故 竹田清治 毛利悌一
長谷川才一 松川行雄
渡辺徳次郎 宮本裕三
小紙文隆 北川紋二
風間 毅 星野仙策

○別院輪番表彰
小林久米作
青木登美恵

○別院仏教婦人会創立八十周年記念大会に当り、
△本山より表彰
永年にわたる仏婦活動に邁進され功績顕著につき本山渡辺総務から授与さる。

辻 初枝（会長）
宮本ミイ（アソカ会会長）
中村トキ（会計）

△別院輪番表彰
北川敬子 沢田京子
宮川トキ 本江静子
堀川トシ 坪川和代
宮本武生子 佐々木アキ
松本文子
以上

○風間、辻井仏社会員、本願寺新報に紹介される
風間毅、辻井聡克両仏社会員の活躍ぶりが、本山の本願寺新報の「ひと」の欄に掲載された。一寺院の仏社会員二名もが権威ある本願寺の全国版にのったことは、まことに喜ばしく、平素から別院の朝まいり、日曜講座の聴聞を欠さず、また、別院での催しのたびに出入の人々の安全を願って交通整理に奉仕にと、報謝の生き方は門徒の範といえよう。

○本山参拝と京都、奈良めぐり
今秋十月下旬予定
参加人員 四十名
心の故郷を尋ねて、楽しい旅を。

職員紹介

小樽別院 担任
中村 総 23才
滋賀県近江町 蓮成寺 衆徒

去る九月二十日付で別院職員として発令され着任した。京都の龍谷大学文学部を卒業、僧侶としての教養、お勤め作法を学び、社会人として小樽の地でスタートを切った。寒い北国で若さを発さんして使命に邁進し欲しい。

小樽幼稚園 教諭
石栗 一枝
小樽市潮見台二の十二
昭和五十五年四月一日より幼稚園に勤務、以来三月で満六年の勤め、
まじめで、仕事熱心な中にも、やさしい女性らしさをたたえ、家にあつては料理に腕を磨いている。そろそろえらび抜かれたフイアンセがあらわれるのでは？

△後記
あけましておめでとうございます。おめでとうという日本語は、モンゴル語のオミントーからきているといわれています。モンゴル語のオミントーは南無阿弥陀仏のことです。
「あけましておめでとう」と言える。「あけまして南無阿弥陀仏」と言える。
昨年は暗い問題の多発した年であった。知能的 計画的犯罪が多く、常識を超え、人間性を見失った狂気とさえない。またまた日航機事故による多数の死傷者は痛ましい限り。一部に歪んだテレビ番組、いじめの問題等現代社会の病状は末法濁世の昨年とは縁の深い方が多く亡くなった。新春早々竹田総代を始め数名にもあがる。筆者も指導を受けた桐溪和尚を始め、札幌の松本昇典師を始め本山の重鎮が亡くなっていった。合掌いよいよ平生業成のみ教を大切に今年もよろしく。